2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	理学療法治療学(呼吸器疾患)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	前期	教室名	普通教室、機能訓練室
担当教員	山本 真吾	実務経験とその関連資格	(理学療法士)臨床現場にて呼吸器疾患を持つ対象者の理学療法の実務経験有り。			
《授業科目における学習内容》						
①呼吸の解剖・生理・運動学について復習する。 ②呼吸不全の病態について学習する。 ③呼吸理学療法のための評価方法を学び、実技を実施する。 ④呼吸理学療法のための基本手技を学び実技を実施する。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験(100%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
石川朗総編集:第3版 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 中山書店 配布プリント						
《授業外における学習方法》						
教科書を中心とした授業の予習・復習。						
《履修に当たっての留意点》						
国試問題が解けるよう、また実習や臨床で生かせるように学習して行きましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系の解剖学・生理学・運動学について理解することができる。	教科書 配布プリント	事前学習 呼吸器系の解剖・生理・運動学の教科書を読む(30分) 事後学習 授業の復習(30分)	
		各コマにおける授業予定	呼吸に関わる解剖、生理、運動学の国試問題の解説作り。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系の解剖学・生理学・運動学について理解することができる。	教科書 配布プリント	事前学習 呼吸器系の解剖・生理・運動学の教科書を読む(30分) 事後学習 授業の復習(30分)	
		各コマにおける授業予定	呼吸に関わる解剖、生理、運動学の国試問題の解説作り。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸器系の解剖学・生理学・運動学について理解することができる。	教科書 配布プリント	事前学習 呼吸器系の解剖・生理・運動学の教科書を読む(30分) 事後学習 授業の復習(30分)	
		各コマにおける授業予定	呼吸に関わる解剖、生理、運動学の国試問題の解説作り。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	呼吸不全の病態と呼吸器疾患について理解する事ができる。	教科書 配布プリント	事前学習 呼吸不全の病態と呼吸器疾患について教科書を読む(30分) 事後学習 小テストの勉強(30分)	
		各コマにおける授業予定	酸素化不全と換気不全、急性呼吸不全と慢性呼吸不全、代表的な疾患について学ぶ。			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	呼吸理学療法のための評価を実施することができる。	教科書 配布プリント	事前学習 呼吸理学療法のための評価について教科書を読む(30分) 事後学習 授業の復習(30分)	
		各コマにおける授業予定	医療面接、フィジカルアセスメントについて実技を通して学ぶ。			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 呼吸理学療法のための評価を実施することができる。	教科書 配布プリント	事前学習 呼吸理学療法のための評価について教科書を読む(30分) 事後学習 小テストの勉強(30分)
	各コマにおける授業予定	運動耐容能、ADL、QOL、画像所見、換気機能検査等の評価について実技も通して学ぶ。		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 呼吸理学療法基本手技、コンディショニングについて理解し実施することができる。	教科書 配布プリント	事前学習 コンディショニングについて教科書を読む(30分) 事後学習 小テストの勉強(30分)
	各コマにおける授業予定	リラクゼーション、呼吸練習、呼吸筋トレーニング、胸郭可動域トレーニングについて実技も通して学ぶ。		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 呼吸理学療法基本手技、コンディショニングについて理解し実施することができる。	教科書 配布プリント	事前学習 排痰法について教科書を読む(30分) 事後学習 小テストの勉強(30分)
	各コマにおける授業予定	リラクゼーション、呼吸練習、呼吸筋トレーニング、胸郭可動域トレーニングについて実技も通して学ぶ。		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 呼吸理学療法基本手技、排痰法、排痰で用いる徒手の手技について理解し実施することができる。	教科書 配布プリント	事前学習 呼吸困難改善のための手技について教科書を読む(30分) 事後学習 小テストの勉強(30分)
	各コマにおける授業予定	排痰の目的、排痰に必要な要素について学ぶ。 排痰手技について実技を通して学ぶ。		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 呼吸理学療法基本手技、呼吸困難改善のための手技について理解し実施することができる。	教科書 配布プリント	事前学習 運動療法について教科書を読む(30分) 事後学習 小テストの勉強(30分)
	各コマにおける授業予定	呼吸困難の分類、重症度評価、発生機序について学ぶ。 呼吸困難改善の為の手技について実技を通して学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 呼吸理学療法基本手技、運動療法について理解し実施することができる。	教科書 配布プリント	事前学習 酸素療法について教科書を読む(30分) 事後学習 小テストの勉強(30分)
	各コマにおける授業予定	運動療法の目的と意義、運動療法実施の為の評価について学ぶ。 実際の運動療法について実技を通して学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標 酸素療法について理解することができる。	教科書 配布プリント	事前学習 人工呼吸療法について教科書を読む(30分) 事後学習 小テストの勉強(30分)
	各コマにおける授業予定	酸素療法の目的、開始基準、注意事項、合併症、在宅酸素療法について学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標 人工呼吸療法について理解することができる。	教科書 配布プリント	事前学習 慢性呼吸不全の理学療法について教科書を読む(30分) 事後学習 小テストの勉強(30分)
	各コマにおける授業予定	人工呼吸器の原理、人工呼吸器が生体に与える影響、人工呼吸器管理中の呼吸理学療法について学ぶ。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 慢性呼吸不全の理学療法について理解することができる。	教科書 参考書 配布プリント	事前学習 配布プリントを読む(30分) 事後学習 配布プリントの復習(30分)
	各コマにおける授業予定	慢性呼吸不全になる疾患、慢性呼吸不全に対する呼吸理学療法について学ぶ。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標 呼吸器疾患に関する国家試験問題を理解し解くことができる。	教科書 参考書 配布プリント	事前学習 配布プリントを読む(30分) 事後学習 配布プリントの復習(30分)
	各コマにおける授業予定	呼吸器疾患に関する国家試験問題の解説作り。		